

ウェルウォーク通信

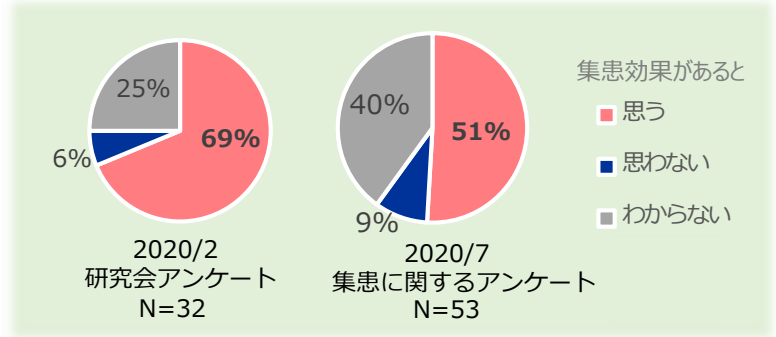
日頃はウェルウォークをご活用いただきまして誠にありがとうございます。

今回は、臨床面以外のウェルウォーク(以下、WW)導入による波及効果について、導入施設様より声をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

1. 集患効果

WW導入による集患効果についてアンケートを実施したところ、**半数以上の先生方が集患効果を実感されている**という結果になりました。

また、集患のために独自の取り組みをされている施設様もあり、一部をご紹介させていただきます。



■ 甲府城南病院

病院広報誌にWWの取り組みを掲載し、近隣の医療機関へ配布するなどの取り組みを実施しています。**患者様のご家族が情報を耳にされ、ご興味を持っていただいている**という手応えを感じています。

■ 西宮協立リハビリテーション病院

急性期病院への連携相談時にPT・OTが同行(院内の地域連携室にPT・OTを配属)し、パンフレットを用いて急性期病院へWWをアピールをすることにより、**10名/月 程度の患者様を獲得**できています。

■ 明石リハビリテーション病院

急性期病院のセラピスト向けに、WWの体験会や勉強会を実施したり、回復期でのWW練習経過を報告したりすることで、**患者様の事例を通してWWの有用性の理解を促し**ています。

2. 治療の標準化

WWを使用することで結果の数値化や言語の統一化が進み、治療の標準化に繋がっているとの声をいただきました。

■ 花川病院

WWは評価結果を数字で簡単に取得でき**客観的なデータを基に治療方針を考えられる**こと、また、異常歩行の定義が明確化されており**統一された言語で議論ができる**ことから、治療の標準化に寄与していると考えます。

■ 湯布院病院

練習ガイドを参考にすることで、**経験が少ない療法士でも治療効果を高めることができるようになった**と感じます。

3. 介助者の身体的負担軽減

WWのアシストにより介助者の身体的負担の軽減や体格に依存しない治療が可能になっているとの声をいただきました。

■ 五日市記念病院

ロボット脚のアシスト機能や体重免荷機能により、介助者の**身体的負担は明らかに軽減し**、患者様の**歩行量確保に大きく貢献**していると思います。

■ 熊本機能病院

特に女性スタッフから、「身体的負担が減った」「体格差により生じる問題が軽減された」といった声を聞いています。また、**介助者の疲労が減るだけでなく、歩行を中断せず歩きながら姿勢の崩れを直す**ことができます。さらに介助部位を減らすことができるため、**客観的な評価がよりできるようになった**と感じています。

ご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

問い合わせ先：clinical-ww@mail.toyota.co.jp